

第3種郵便物認可

# 科学

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を無理に減らそうとするのはやめた方がいい。こう提唱する藤井義明北大学院工学研究院教授(50)の論説が、今月刊行予定の資源・素材学会誌「Journal of MMIJ」に掲載される。(聞き手・編集委員 橋井潤)

## 北大・藤井義明教授



「CO<sub>2</sub>の無理な削減は必要ない」と語る藤井義明教授

ふじい・よしあき 空知管内上砂川町生まれ。86年に北大学院工学研究所修士課程修了。94年、深部探炭に伴う微小地震の研究で博士号取得。室工大助手などを経て05年から現職。専門は岩盤力学。札幌市在住で週末には自転車やスキーを楽しむ。

# 無理なCO<sub>2</sub>削減やめよう

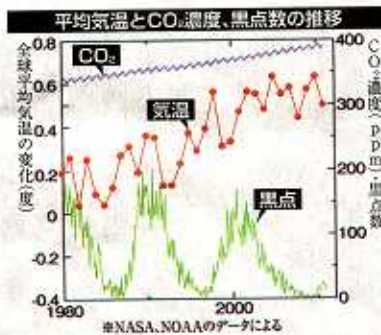
## 石炭、LNG発電現実的

止めようとする人はいませに悪影響を及ぼします。一。温暖化の結果、悪影響が、従来の石油火力も原が出るのなら、それを解決油価格の下落が望めず、中する道を考えるのが対策で東の政情不安もあるのでは。比はないでしょうか。「地球増設はもつての外です。比較の安定供給が見込める石ツ」などの耳に心地よい炭火力や液化天然ガス(LNG)発電は、国のコストだけの短絡的な合言葉で思等検証委員会によるとCO停止してはいけません」  
——一方、日本では昨年の東日本大震災以降、原発の相次ぐ停止もあって、これらの活用で切り抜けるベネルギーの確保が緊急課題になっていきます。  
「今のところ、風力や太陽光などの『再生可能エネルギー』は電力単価より発電コストの方が高く、今後技術向上がなければ経済

地球温暖化で大変な急激な気温上昇は起きていらずに済みそうです。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第4次報告書は、2000年からの50年間の気温上昇を、CO<sub>2</sub>排出が倍増した場合で4.6度、同量なら2.3度、半減なら1.6度と予想しています。トも無視できません」

「私も地球温暖化の主因はCO<sub>2</sub>だと考えています。ところが、地球の平均気温の変化を見ると、21世紀に入ってからの10年以内で、太陽が活発になったときに気温がどうなるかが注目されます。ただ、この上昇だと16項目で悪化するが、1〜2度では12項目

「私たちが考えているのは、CO<sub>2</sub>削減は待ったなしとさんさん言われてきました。温暖化は止まったの(IPCC)第4次報告書は、2000年からの50年間の気温上昇を、CO<sub>2</sub>排出が倍増した場合で4.6度、同量なら2.3度、半減なら1.6度と予想しています。トも無視できません」  
「それはまだ分かりませんが、この温暖化の停滞は、恐らく黒点数が少ないなど、太陽活動が極端に不活発な状態に入っているからだと思います。また、生態系や食料、健康に投じて行われている温暖化対策の効果は問われます。電巻を立ちあげただけで



「そうですね。もし温暖化が止まったのだとしたら、人類の将来にとって大変喜ばしいことではないでしょうか。危機を訴えてきた人たちがその手を挙げて歓迎して良さそうなのに、誰も喜んでいないのが不思議です」